

「降灰予報の高度化に向けた提言」の概要

降灰予報の基本的な要件

- ・ 現在の噴煙高度の閾値を基準とする発表ではなく、一般住民の生活やライフライン等に影響がある降灰量が予想された場合に発表すること。
- ・ 一般住民が理解しやすく、適切な対応行動をとりやすいものとし、降灰だけでなく小さな噴石の情報も含めること。

降灰予報の情報体系

- ・ 降灰予報に対する一般住民、自治体防災担当者及び交通・ライフライン・農林水産業等各分野のニーズと情報の予測精度を考慮し、“噴火前の情報”、“噴火直後の速報”及び“噴火後の詳細な予報”の3種類に分けて発表すること（別図）。

降灰量の階級

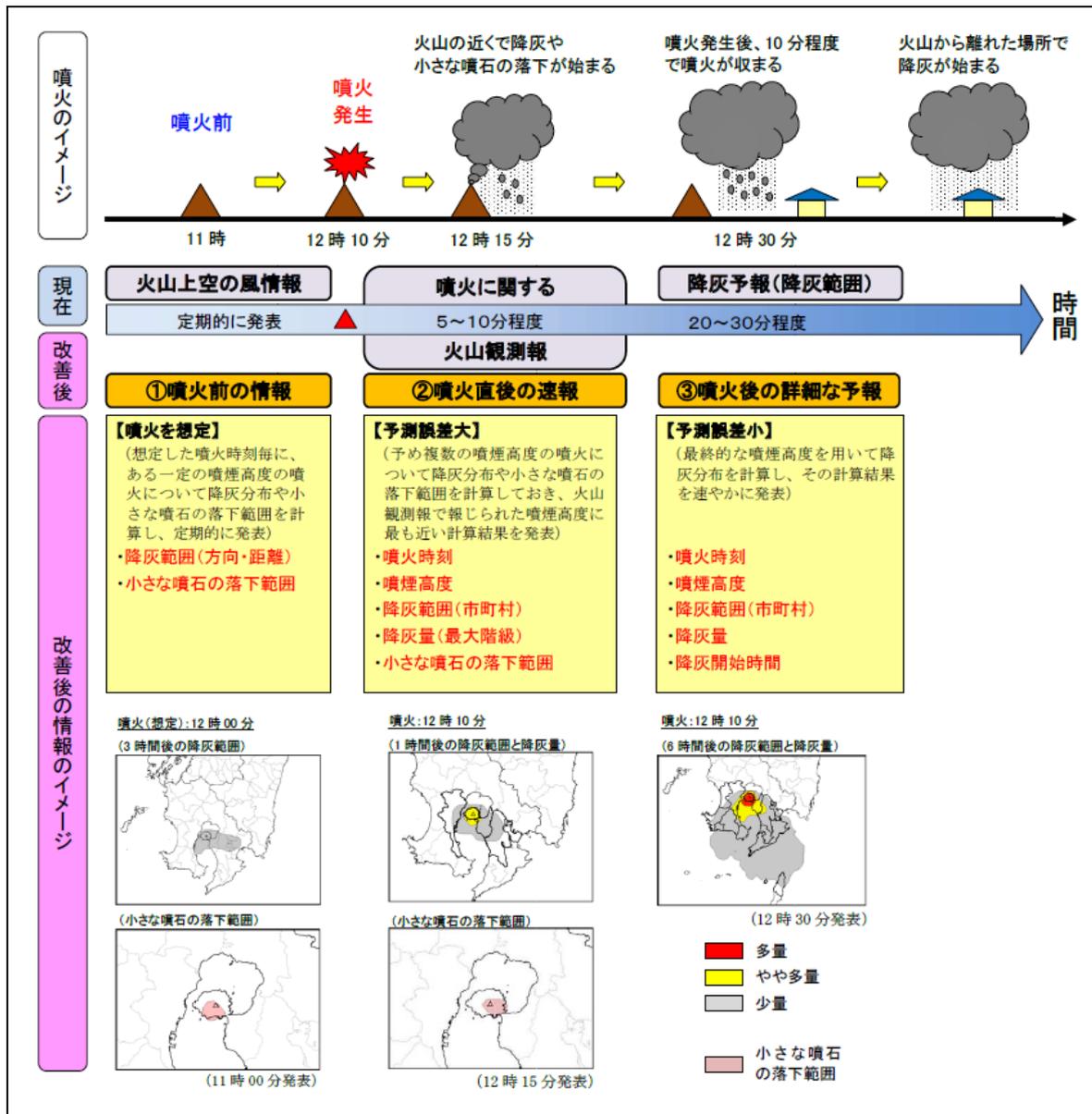
- ・ 降灰量の情報を防災対応に有効なものとするため、健康、交通、ライフライン等各分野における降灰の影響、対応行動と降灰量の関係を把握し、降灰量の階級を導入すること（別表）。

降灰予報の高度化を進めるにあたって

- ・ 当面は噴火活動の活発な桜島をモデルケースに、地元自治体等の協力を得て、情報の試験的な提供を行うとともに、情報内容や発表基準等の改善を図ること。併せて降灰量、降灰の影響及び対応行動事例の収集・整理に努めること。
- ・ 降灰予測手法の課題について、大学や研究機関等の研究成果の導入等により改善すること。

なお、降灰についても、噴火警報や噴火警戒レベルを的確に運用することにより、住民の避難を支援することを基本とする。降灰に関する避難のあり方が議論され、降灰に特化した警報が必要と判断された場合には、警報化を検討する。

降灰に関する情報の発表の流れのイメージ



降灰予報で使用する降灰量の階級表

名称	表現例		影響ととるべき行動		その他の影響	
	厚さ キーワード	イメージ※1		人		道路
		路面	視界			
多量	1mm 以上 【外出を控える】	完全に覆われる 	視界不良となる 	外出を控える 慢性の喘息や肺気腫が悪化し健康な人でも目・鼻・のど・呼吸器などの異常を訴える人が始める	運転を控える 降ってくる火山灰や積もった火山灰をまきあげて視界不良となり、通行規制や速度制限等の影響が生じる	がいしへの火山灰付着による停電発生や上水道の水質低下及び給水停止のおそれがある
やや多量	0.1mm ≤ 厚さ < 1mm 【注意】	白線が見えにくい 	明らかに降っている 	マスク等で防護 喘息患者や呼吸器疾患を持つ人は症状悪化のおそれがある	徐行運転する 短時間で強く降る場合は視界不良の恐れがある 道路の白線が見えなくなるおそれがある(およそ0.1~0.2mmで鹿児島市は除灰作業を開始)	稲などの農作物が収穫できなくなったり※2、鉄道のポイント故障等により運転見合わせのおそれがある
少量	0.1mm 未満	うっすら積もる 	降っているのが ようやくわかる	窓を閉める 火山灰が衣服や身体に付着する 目に入ったときは痛みを伴う	フロントガラスの除灰 火山灰がフロントガラスなどに付着し、視界不良の原因となるおそれがある	航空機の運航不可※2

上記区分を基に、桜島をモデルケースに、地元自治体等の協力を得て見直していく。

※1 掲載写真は気象庁、鹿児島県、(株)南日本新聞社による
 ※2 富士山ハザードマップ検討委員会(2004)による想定

「降灰予報の高度化に向けた検討会」検討経過等

1. 検討経過等

- 平成24年 7月 5日 検討会（第1回）
11月 8日 検討会（第2回）
平成25年 2月19日 検討会（第3回）
3月29日 「降灰予報の高度化に向けた提言」公表（予定）

2. 「降灰予報の高度化に向けた検討会」委員名簿

- 座長 田中 淳 東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター長・教授
副座長 石原和弘 火山噴火予知連絡会副会長、京都大学名誉教授
小屋口剛博 東京大学地震研究所教授
関谷直也 東洋大学社会学部メディアコミュニケーション学科准教授
大坪篤史 宮崎県総務部危機管理局次長兼危機管理課長
福永敬大 鹿児島県危機管理局危機管理防災課長
中村行次 鹿児島市建設局道路部道路維持課長
黒岩 晋 JA 嬭恋村営農畜産課長
郡山千早 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科准教授
田上憲一郎 株式会社南日本放送報道局長
山崎 登 日本放送協会解説主幹
藤山秀章 内閣府政策統括官（防災担当）付参事官（調査・企画担当）
山口英樹 消防庁国民保護・防災部防災課長
山口真司 国土交通省水管理・国土保全局砂防部砂防計画課地震・火山砂防室長
鈴木英一 国土交通省鉄道局施設課鉄道防災対策室長
鈴木正則 国土交通省航空局交通管制部管制課長（第1回）
鈴木昌智 国土交通省航空局交通管制部管制課長（第2、3回）

（事務局）気象庁地震火山部火山課